

社会福祉法人森の会
グループホーム地域連携推進会議議事録

日 時：2025 年 12 月 18 日（木）15：00～16：00（会議）16：00～17：15（ユニット見学）

場 所：けやきリビング / 全ユニット訪問

参加者： 君島理事長 齋藤（管理者） 木村（サービス管理責任者）

S 様（利用者代表） Y 様（地域の方） T 様（福祉に知見のある方）

O 様（経営に知見のある方） Y 様（ご家族代表）

1. 開催のご挨拶

理事長挨拶

今年度より地域連携推進会議の実施が義務化となった。森の会の GH の現状について説明させていただきながら、GH のあり方、地域との関わり方など、様々意見交換をしていけるとありがたい。今後ともよろしくお願いいたします。

2. 構成員自己紹介

S 様（利用者本人）/Y 様（地域の方）/T 様（福祉に知見のある方）

O 様（経営に知見のある方）/Y 様（家族代表）

K（社会福祉法人森の会理事長）/S（共同生活援助「優朋」管理者）

K（共同生活援助「優朋」サービス管理責任者）

※東久留米市障害福祉課担当者より今年度、市内どの GH の地域連携推進会議にも参加しない方向と確認済み。

3. 森の会 グループホームの紹介

○事業別ミッション

私たちは、「住み慣れた地域で安心して生活し続けたい」という障害をお持ちの方の思いに応えるため、生活を支える支援の充実を目指します。

◆GH 科

- 1 その人の可能性を信じます。
- 2 一人ひとりの意思/意志を尊重します。
- 3 共同生活を営む住居で相談・入浴・排せつ・食事の介護、その他の日常生活をそれぞれのライフスタイルを尊重し、支援します。
- 4 共同生活の中で、社会性や人間関係を身に付け、互いが思い合える生活を支援します。
- 5 住み慣れた地域の中で、自立した日常生活及び社会生活が豊かに営めるよう支援します。

（利用者）

○入居者は定員 27 名に対し、会議当日の利用者数は 26 名。男性寮 3 棟、女性寮 1 棟。

これまでで退去者は1名。(ご本人逝去のため)女性棟の空きに関しては、来週1名の見学を予定している。

○利用者は20代から60代と幅広い。65歳を超えた方も2名生活されている。できるだけ長く、地域で生活し続けられるように、医療連携を強化中。訪問医療・訪問薬局・訪問看護など外部機関との連携に努めている。将来的に高齢者施設への移行を視野に入れつつも、デイサービスの利用やケアマネとの連携など行い、本人の状況に柔軟に対応しながら支援している。

(行事)

○行事は基本的にユニットごとに実施。誕生日会・ハロウィンパーティー・クリスマス会などを行っている。コロナ収束からはじめて全体企画で「忘年会」を開催。入居者26名中23名が参加。会場は通所部(プラタナス)を借りた。

(余暇)

○週末は家族と過ごす利用者が多い。少数ではあるが寮で過ごす利用者もいるため土日・祝日もスタッフを配置。対応している。

個別の外出は、原則移動支援の利用をお願いしているが、利用者と相談の上、日勤者と外出することもある。地域のお祭りや消防訓練などにも参加している。

一方で利用者の高齢化もあり、週末は外出よりもゆっくり過ごしたいと希望する利用者も多い。

(日用品・光熱費)

○光熱費 13000円

○日用品費 7000円

※光熱費・日用品費・食材料費は、ユニット毎に年に1回精算し、残額は利用者に返金している。

(経営状況)

入居率は96%(定員27名中26名)。1部屋空床が続いているため、経営状況としてはギリギリ。新たな入居者確保を最優先にしつつ、重度加算を検討している。

また空床が続くのであれば、空床利用型短期入所も検討していく。(人員配置がクリアできれば)

(BCP計画(自然災害・感染症))

自然災害については、けやき・かりん/たちばな・優朋の2拠点を分けた避難先の想定を行っている。2拠点でそれぞれ避難訓練を定期的実施。災害の際、スムーズに協力できるようにしている。

感染症については、法人で規定を策定。法人での協力体制を記載している。

(虐待防止・権利擁護について)

ユニットのわかりやすい場所に、相談先を掲示。第三者委員にも訪問して貰うなど、相談しやすい環境に留意している。

虐待防止委員が中心となって、職員には年に1回の研修を行っている。

(感染症対策)

感染症委員会が中心となってマニュアルの整備・研修の実施を行っている。

(ユニット報告)

けやき・かりん・優朋・たちばな

※個別報告は別紙

4. 課題

○物価高騰による食材料費の値上げ

→物価高騰が続き、これまでの回収金額ではやりくりができなくなっている。

(特に米の値上がりが厳しい。)

朝食350円 → 400円へ

夕食500円 → 600円へ

※昼食提供した場合、400円

すでに理事会を通して来年2月から実施予定。運営規定を変更した。一部の理事から、「食事作りだけが職員の本分ではないので、食事は簡単な物にして利用者支援に重きをおくことも大切である」、といったご意見も頂戴している。森の会としては引き続きミールキットで食材を発注し、簡単ではあるが手作りで温かみのある食事提供をしていきたいと考える。食事を通して家庭的な雰囲気を感じてもらえるような支援を目指していきたい。

○女子棟に空室がひとつある。体験利用の方もおられたが利用には繋がらなかった。ニーズとしては男性の方が多い。来週、1名見学希望があるので利用につながると良い。

5. 質疑応答

・食事について（どのようなものを利用しているのか？）

食事はミールキットで業者に発注している。一部の野菜は刻んであり、調味料も量ってある形で届くようになっている。

・洗濯について（どのぐらい職員が行っているのか？）

利用者それぞれで自立度が異なっており、自分で出来る方には自分で取り組んでもらっている。難しいところを一部支援している。

・職員について（職員の人数はどれぐらいいるのか？勤務時間は？）

総数 27人（常勤7 非常勤20）

常勤は変形労働勤務

月の休みの数はカレンダーと併せるが土日祝日にも勤務あり。

早番、遅番、日勤・夜勤をシフトで勤務する。

・利用状況はどの程度なのか？

週末にご自宅に帰省される方が多い。両親が亡くなっているなどの事情もあり、かりんと優朋には数名、帰省せずに毎週末対応している方がいる。グループホームの経営上、月に帰省する日数を指定している GH もあると聞くと、森の会としてはご家族との時間も大切にさせていただきながら、無理のない範囲で利用できる日を増やしていけるよう提案している。

・防災関連

優朋の平均区分が上がってきており、スプリンクラーの設置が義務となる前に準備をすすめた。優朋とたちばなには後付けのスプリンクラーを設置している。

R6.4 月に工事完了。経費を要した。

・O 様から

自分の運営する GH でも業者のミールキットで調理しているが、量としては少なく感じている。野菜や冷凍食品などを常備し、必要に応じていつでも食事に追加できるように対応している。設備関係では、リビングのスプリンクラー設備が劣化し、リビングが水浸しになってしまうことがあった。その日いた職員ではスプリンクラーの止水弁の位置が分からなかったり、消防署の出動もあったり大変だった。設備の点検や現場職員との情報共有が大切であると感じた出来事だった。

・Y 様から

食事はカロリー数など測られているのか？親としては、食事の金額はいくら高くなっても構わないので、しっかりとした食事をとって欲しいと考えている。

⇒献立表を見ると一人当たりのグラム数は計算されている。今はプラタナスの給食を作っている業者に用意してもらっているため、問題ないと思う。少ないと感じた場合は白米の量や冷凍食品や冷凍野菜などの追加で調整している。

6. ユニット訪問

① けやき・かりん

※環境を確認し、「短期入所については、既存の入居者にも配慮しながら、慎重に検討して下さい。」とご意見を頂いた。

② 優朋・たちばな

全ユニットへ訪問して頂いた。